

## 事業完了（廃止等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	平成31年4月26日 ~ 令和2年3月5日
調査研究事項	《委託研究Ⅳ》 【広島市立二葉中学校】 ア 広報・相談体制の充実に関すること ウ 教職員研修に関すること ・ 日本語指導を充実させるための教職員研修等について エ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関する こと 【広島市立観音中学校】 ア 広報・相談体制の充実に関すること ウ 教職員研修に関すること ・ 日本語指導を充実させるための教職員研修等について エ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関する こと
調査研究のねらい	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり
調査研究の成果	【広島市立二葉中学校】 【広島市立観音中学校】 別紙のとおり

## 調査研究のねらい及び成果等 【広島市立二葉中学校】

調査研究事項	<p>《委託研究Ⅳ》</p> <p>【広島市立二葉中学校】</p> <p>ア 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>ウ 教職員研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語指導を充実させるための教職員研修等について</li> </ul> <p>エ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること</p>
調査研究のねらい	<p>【広島市立二葉中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページ等を利用して、夜間学級の存在を周知し、より多くの人に夜間学級を知ってもらう。</li> <li>○ 入学希望者の中には、不登校を経験した人やさまざまな事情を抱えた人がいることから、生徒一人一人の特性に合った学び方を尊重し、受入体制や指導方法等について研究する。</li> <li>○ 夜間中学に通う外国籍の生徒は、年齢層が広範囲に渡り、学習歴や日本語の習熟度が異なるため、生徒一人一人の学習状況に応じた効果的な指導方法等について研究する。</li> </ul>
調査研究の成果	<p>《広島市立二葉中学校》</p> <p>1 調査研究の実施内容</p> <p>【4月】 第1回研修会 各生徒の状況を把握するとともに、各学習グループにおける各教科の年間指導計画を検討し、評価方法についての共通理解を図った。</p> <p>【5月】 第1回検討会議 各生徒の学習ニーズと実際の学習状況を踏まえた指導方法等について協議した。</p> <p>【6月】 第2回検討会議 夜間学級の情報を発信する方法について検討し、今年度は今まで以上に意識して学校のホームページへの掲載を増やすことにした。</p> <p>【7月】 第2回研修会 個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、実態を把握するとともに、各教科の指導方法や教材について交流・検討し、指導方法や学習内容の充実・改善を図った。</p> <p>【8月】 生徒の実態に適した学習指導方法等についての研修 講師を招聘し、「日本語指導について」の研修を行った。学習者のニーズをモニタリングし、評価方法を最初に決めて授業計画を立てることにより、到達目標が明確になるため、生徒の学習意欲が高められ、効果的な学習につながるということを学ぶことができた。</p> <p>【8月】 夜間学級に関する情報についての広報 夜間学級リーフレットの見直しの必要性について検討した。</p>

【9月・11月】 オープンスクール

2回実施した。校長会等で案内したが、残念ながら参加はなかった。

【9月】 異文化交流体験学習

講師による尺八・琴の演奏を通して、日本の古典音楽を鑑賞し、異文化理解を図った。また、講師の指導による尺八・琴の演奏体験も行い、音楽の楽しさを実感するとともに、日本語での交流ができ、その後の学習への意欲を高めることができた。

【10月】 第3回研修会

各生徒の前期の学習状況を確認し、後期の指導内容について検討した。また、高校受験希望生徒に対する取り組みについて確認した。

【12月】 先進校視察

神戸市立丸山中学校西野分校を視察した。

生徒の年齢層は10代から80代までと幅広く、ほとんどが外国籍で占められているが、授業はどのクラスも日本語で進められていた。国語・数学・英語の授業は、学年の枠を外して生徒の学力・日本語力によって習熟度別の6クラスで行い、年度途中でも必要に応じてクラス編成替えができるよう時間割は全クラス同じで運営されていた。絵や図などを取り入れて理解しやすく工夫された自主教材で指導されていた。本校でも本年度は英語で習熟度別授業を行っているが、他の教科も習熟度別を取り入れるのは時間割編成等の関係で難しい。しかし、生徒に学力をつける指導方法の一つとして参考になった。

【2月】 第4回研修会

年間指導計画や評価方法、学習指導、生徒指導等について、今年度の成果や課題を検討した。

【2月】 第3回検討会議

既卒者、入国者を問わず、さまざまな事情を抱えた生徒が入級した場合を想定し、学習グループの編成や年間指導計画等について検討した。

【3月】 第5回研修会

今年度の成果と課題をまとめ、来年度へ向けての準備を確認した。

2 調査研究の成果

○ 今年度の在籍生徒は、日本と中国・ネパール・フィリピンの外国籍の生徒で、生徒の日本語力や各教科の学習状況、卒業後の進路希望等により、日本語基礎・日本語発展・教科基礎・教科発展の4グループに編成した。毎週各グループの学習状況と生徒の状況を交流し、学習の内容・進度・指導方法について協議し、全員が意識統一して学習指導に取り組むことができた。

○ 英語については同じグループ内でも学習歴や習得状況に個人差が大

きいため、今年度は英語の習熟度別グループを編成し、より適切な指導ができるよう努めた。生徒それぞれの学力に応じた学習ができ、来年度も工夫を加えながら実施を考えたい。

○ パソコンの授業では、生徒それぞれの日本語力に応じた教材を使ってシャドーイングに取り組んでいる。初めはCDについていけなかった生徒も、繰り返し学習することで、大きな声で感情を込めてできるようになった。

○ 生徒の実態に合った教材を準備し、絵や図、ICT等も活用し、生徒の学習ペースに合わせた指導を心掛け、学習内容のより効果的な理解を図った。あまり欠席しないで授業を受け、短時間でも家庭学習が継続できた生徒は、程度の差はあるものの確実に学力が上がり、学習意欲の向上につながっている。生徒に何か一つでも自信を持たせることができれば、他のことにも良い影響を及ぼすので、休みがちな生徒への根気強い声かけと学校へ行って勉強しなければ損をすると思えるような魅力的な授業・教材づくりを工夫していく必要がある。

○ 高校進学希望生徒は、授業前に進路保障に向けて教科の補習を行った。無理のない内容で進め、継続して出席した生徒は一定の学力をつけることができた。補習を希望しているものの出席できない生徒の指導が今後の課題である。

○ 学校のホームページに授業や行事の様子を随時載せたり、広島市の夜間学級リーフレットを見直し、作り直して配布し、夜間学級の存在を周知させることができた。

○ 評価については、今年度も十分な研修ができなかった。先進校視察を参考に、とりあえず一つの教科を選び、年間指導計画と評価基準・評価方法を全員で検討してみるのもよいかもしれない。

## 調査研究のねらい及び成果等 【広島市立観音中学校】

### 1 調査研究のねらい

【広島市立観音中学校】（学習指導に関すること）

本校には日本人、ネパール人、中国人、フィリピン人が在籍し、年齢層は10代から40代と幅広く、学習歴も様々である。義務教育内容習得が不十分な既卒者も入級している。よって、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導が課題であると考えた。

そこで、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究し、生徒の学力向上に資することをねらいとする。

（課題）

- ・ 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い生徒に対する効果的な学習指導
- ・ 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- ・ 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階への移行
- ・ 義務教育内容の習得が不十分な日本人生徒に対する教科指導

（その課題を持つこととなった背景等）

- ・ 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループでとはいえ、一斉授業で日本語入門から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。
- ・ 数年前から、出席状況や生徒の年齢等により、日本語初級の前半終了時点で既に学習内容定着に差が生じる状況が見られ、既習事項の定着を前提として展開される教科学習の教材の学習内容を理解するのが困難な生徒が多い。
- ・ 中国人生徒の中には、未就学やそれに近い実態のため中国語の読み書きすら困難で、翻訳解説書中国語版が学習理解の補助教材とならない生徒もいる。ネパール人生徒においては、ネパール語版の翻訳解説書はまだ発行されていないため、英語を日本語学習の補助媒介として使える若年生徒と違って、英語どころか母国での学習歴自体がないような中年生徒は、結局わずかな日本語で日本語を学ぶしかないため、日本語の定着は非常に困難である。彼らに対して、多く速く教えることよりも、日本語を確実に定着させるため、絵や実物を活用したり反復練習等を多用したりするなど工夫しているが、理解・定着が困難な生徒もいる。
- ・ 日本語教材だけで行う日本語学習では、日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力が向上を図れるのだが、生徒の多くの認識はなかなかそこまで達していない。また、日本語能力は初級レベルであり、その日本語と中学校教科書の日本語にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習は自分にはまだ早いと考える生徒も多い。
- ・ 本校は従来より日本人生徒を多く受け入れており、義務教育内容未修了者への教科指導にはそれなりの実績がある。しかし、今年度より既卒者・義務教育内容の習得が不十分な生徒を迎え、さらに「工夫された授業」によって効率よく学習指導し、短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要性が生じた。

以上のような状況の中で、より効果的で生徒の学習意欲を高めるような取り組みについて取り組む必要があり、日本語指導チーフ・教科指導チーフを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成及び「行事を通した日本語指導」について調査研究する。また、昨年度に引き続き、夜間学級における「不登校生徒」への対応について討議し、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集もおこなう。

## 2 調査研究の成果

### 【広島市立観音中学校】

#### (1) 本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次のような取り組みを行い、実践に結びつけ成果をあげた。

##### ① 教員研修

年5回程度、校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の状況を把握するとともに、本年度の学習グループ編成や年間カリキュラム・使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する意識統一を図る場とした。また、「夜間学級による不登校生徒への援助」に関する研修会を開催し、情報交換・オープンスクール開催等について討議を重ねた。さらに「テキスト・副教材検討委員会」・「テキスト・副教材作成委員会」を経て今年度作成した「自主作成教材」の交流・研究・討議を継続的におこなった。

##### ② 情報収集…先進校視察 令和元年 12月6日(金)

神戸市立兵庫中学校北分校を、不登校生徒への取り組みについての視察を主な目的として訪問した。

##### ○ 先進校視察で参考になった点

1. 生徒の一人ひとりの学習意欲に応える授業づくりに力を入れている。
2. 仲間への思いやりの心を持ち、互いに支えあっている。
3. 日本人不登校生徒と受け入れの充実に力を入れている。

教科学習に必要な日本語(学習言語)が十分できない生徒のために、学習教室を始業前の時間(16:00~16:50)に開設している。授業見学ではそれぞれの学習クラスで生徒の個々の学習状況を把握しながら、教具を活用して工夫した実践的・効果的な学習指導方法をされていると感じた。また中学校での学び直しに関しては、日本人不登校生徒の受け入れの話が聞け、大変参考になった。

昼間の生徒たちとの交流(文化祭)の取組なども見習うべき点だと思われる。生徒や地域の実態が異なるため、そのままの導入は難しいが大いに参考になった。今回の先進校視察で得たことを我が校で取り組みに、どう取り入れていくかを今後検討しながら研修していきたい。

##### ③ 授業実践

多様な文化体験・言語活動を通して学習意欲・学力の向上に努めた。また、日本語中級グループにおいて、研修や各自収集した情報を活用して、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりを調査研究し、一定の成果を出した。

##### <行事を通した日本語指導>

- ・12月 音楽を通した日本語指導(講師:森崎皓)
- ・1月 国際理解講座(中国スポーツ文化交流 講師:関羽司龍)

##### <研究授業>

- ・10月 日本語中級国語科(夜Cグループ)

四領域のバランスが取れた授業で、多様な生徒の実態に応じた指導方法の研究が深まった。

##### ④ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み

夜間学級における「不登校生徒」への対応について討議し、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集をおこなった。「夜間学級で学んでみませんか?」・「オープンスクール~夜間学級見学会~お知らせ」の2種類の啓発資料を作成し、11月当初より校内や各地区公民館に掲示し呼びかけをおこない、学校ホームページにも掲載した。

## (2) 改善充実の成果について

### ① 教員研修・教材作成

我々は日常特に意識することなく「は」と「が」の使い分けを行っているが、日本語基礎クラスのレベルだと複雑に思え、特に中国籍の生徒は助詞を使わずとも会話が成立するため、助詞を使うことを意識させ会話に活かせるまでに時間がかかった。補習問題をやる前の例題を分かりやすいものにしたたり、教科書で頻繁に取り上げられている疑問詞を取り上げた結果、意欲的に取り組む姿勢が見られた。教科基礎クラスでは、日本語能力がかなりついているため、例題の説明が入りやすく正解率も非常に高かった。また、疑問詞を暗記させていたため、作業をスムーズに進めることができたと思われる。

### ② 授業実践・行事を通した日本語指導

- ・異文化交流・異文化交流…料理チヂミ料理に取り組み、韓国語同好会の方と日本語で話し協働作業することで地域の方とつながりを深めることができた。また、生徒は他国の食文化に興味を持ち、異文化理解を深めることができた。
- ・音楽を通した日本語指導…今年度は唱歌を生徒の発表曲にした。曲の意味を分かって歌うことで感動もあり、中には「この歌は涙が出ます。」という生徒もあり、音楽を通した日本語教育ができたように思う。
- ・国際理解講座…日本語が堪能な中国人講師を招き、バドミントンを通して国際交流を計り、日本語実践の場とすることができた。

### ③ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み

「学齢期不登校生徒の受け入れ」について論議し、夜間学級のできる支援のあり方を模索した。「夜間学級で学んでみませんか?」・「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の2種類の啓発資料を作成し、校内掲示し、フィリピンからの入国生徒及び保護者の参加・見学があった。

## (3) 改善が見られなかった原因

### ① 教員研修・教材作成 今後の課題

- ・基礎クラスに、もっと分かりやすい導入を考えていく。

#### 1 名詞を述語とした「名詞文」、形容詞（イ形容詞を）や形容動詞（ナ形容詞）を述語とした「形容詞文」および動詞を述語とし「動詞文」を例題として取り上げる。

例：松本さん は 部長だ。（名詞文） 松本さん は ハンサムだ。（形容詞文）

松本さん が 来た。（動詞文）

#### 2 いつでも・・・だ。のときは は をつかう。

いつも・・・じゃない。そのときだけ が をつかう。

例：太陽 は 東からのぼる。

授業スタイルが全クラスで統一されており、教員同士の引き継ぎがスムーズにしているため、補習のための教材も生徒には好評であるが、教員の説明力にはまだ開きがあるため、来年度以降も研修を重ねながら教材選びや補習問題も改善をしていきたい。

### ② 授業実践・行事を通した日本語指導

内容的にマンネリが感じられる部分があり、再考の時期に来ているように思える行事もある。生徒の出席率をもっと上げられるよう当日のプログラムをさらに充実させ、地域の人との交流を更にはかかっていきたい。次年度においても、地域交流事業で観音公民館の他の団体との交流をさらにすすめていく。

### ③ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み

12月4日から6日までの3日間、教科指導Cグループの授業見学及び行事参加のオープンスクールを計画し予定通り実施し、フィリピンからの入国生徒及び保護者の参加・見学があったものの、若干名に終わ

った。内容の充実・工夫はもとより、「周囲への周知徹底の方策の改善」を図り、日本人生徒の参加を目指したい。